

「わかる授業づくり」のポイント

さ サイクルの確立

「PDCA」で、不断の授業改善

キーワードは「さいたまっこ」

い 意欲を高める課題の設定

必要感のある学習課題(めあて)の設定

★学習課題は「学習活動」+「目的と手立て」
(めあての提示例)

「雲のでき方について調べよう」 → 学習活動だけの提示

「空気中の水蒸気の変化に着目して、雲ができる仕組みを説明しよう」 → 目的と手立てを追加



学習の見通しを立てる

★児童生徒が解決の方法を考える場面の設定
(投げかけの例)「どうやったら課題を解決できる？」

た 他者と協働した学びの充実

意見交換や議論の充実

- ★あらかじめ個人で考えることが重要
- ★他者とのかかわりの中で自分の考えをより妥当なものにする活動となるよう配慮

ま 学びの振り返り

学習課題に整合したまとめを実施

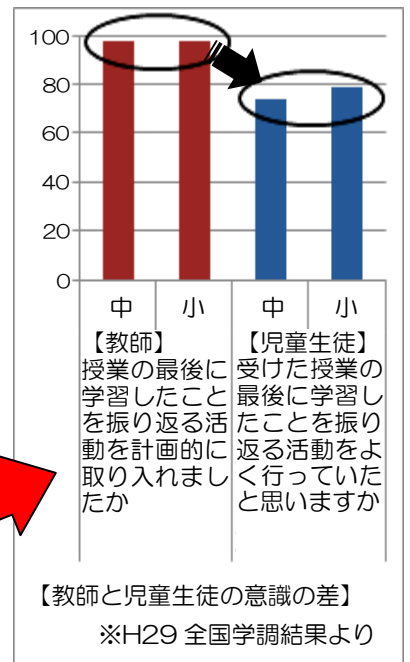
★まとめは「全員が共有する学習のまとめ」
+「子供の言葉を生かしたまとめ」

(まとめの例)

「地上付近の空気が上昇すると、膨張して温度が下がり、露点に以下になると水蒸気が水滴になり、雲ができる。」

学習したことを振り返る活動を実施

- ★個によって違う学習の振り返り
- ★単なる感想ではなく、本時の学びや次時での学びを書かせる(振り返りの例)
「『山の天気は変わりやすい』と言われていることが不思議だったけど、空気が山の斜面に沿って上昇することで気温が下がり、露点に達して雲ができることを学んだので、山頂には雲ができやすいということが分かり、今まで思っていた疑問が解けました。」
- ★はじめのうちは、型を使って書かせることも大切



「変容」が重要!

個に応じた支援の充実

- ★児童生徒に対する具体的な手立ての工夫
→「UDの視点を取り入れた授業づくりの12のポイント」による誰にでも分かりやすい授業

授業を支える学級活動の充実